

2023 年度 政策討論会 第一分科会（第 2 回）要点記録

- ・ 日時 2023 年 8 月 14 日（月）
- ・ 場所 第 1 委員会室
- ・ 会議時間 10：00～11：07
- ・ 出席者 京西 且哲（座長）
高比良 正明（副座長）
藤原 豊和
中岡 佐織
昼馬 光一
南 加代子
友永 修
中井 良介（座長・副座長以下は、議席番号順）

討論テーマ『町会・自治会の加入促進について』

町会加入の現状について、全町の町会加入率、世帯数、加入数、住民台帳、広報配布数、水道加入数人口構成表のデータを元に議論を行った。

<各議員の発言趣旨>

1、8 月 5 日の講演会の報告を受けて

町会連合会夏季研修会

講演テーマ：「加入率の低下、担い手不足を解決！」 講師 水津陽子氏

- 講演会資料の「会費も役の強制もない自治会」について興味を持ったこと、地域イベントは実行委員会形式であり、参加したい人が能動的に参加できる仕組みになっており、一般企業においても新規プロジェクトは部署を超えた有志によるプロジェクト形式で進めることもあり、能動的、主体的に物事を進める方法としては見るべき点があると思う。
- 町会加入の促進について、“町会に入りましょう”では加入は促進されない。案内ちらしも、目を惹くような工夫が必要であり、IT を活用し、斬新なものが求められる。しかし、本市の風土に馴染むのか、また受け入れられるのか、が問われるのではないかと。

- 夏季研修会で学んだことは、「町内会に入りましょう」の呼びかけだけでは加入は促進されないということである。
- 町会加入率低下は全国的な課題である。
 - ・町会長及び幹部役員に社会経験や実績を求めないようにする。
 - ・仕事を持っている高齢者が増え、70歳超で地域に戻ってくる。
 - ・役員がまわってくれば、町会の用事が生活の負担になる。
 - ・町会運営の見直しで改善する。
 - ・会計の透明化、会則や規約などを見直す。
 - ・行政からの委託業務を調整し、業務量を軽減する。
 - ・その他として、町会役員に女性や若者の参加を求める手段や、業務のIT化を検討する。
- 連合町会の研修会で、町会加入の促進や住民の行事への参加、新規住民とのつながりなどで進んだ自治会の例をお聞きした。ITの活用など新しい工夫も参考になった。

2、現状把握

- 町会退会の理由(これまでの経験より)
 - ・葬式が家族葬となったこと。
隣組の世話にならなくても良くなったため、最後の歯止めが効かなかった。
 - ・役員になるのが負担であること。
 - ・行事ごとでの会員同士の揉めごとがあること。
- 所属する地元の町会、市民協議会の各町会の加入率は、ほぼほぼ100%であるが、30%台と低い町会もある。これは、世帯数は多いのだが、小学校区が複数に分かれる。そのため、その校区以外の地域の方は、どうしても加入しない。これも原因の一つである。加入すると輪番で役が回ってくる。これが、ネックになっていることも大きい。市民から寄せられた意見のなかには、「行政からの配布物が、一回であっても、配布に回るのが大変である。仕事をしているので、時間も限られる。それが、複数回になると余計に負担となる。改善して欲しい。」とあった。自治振興課に要望はしたものの、全てを改善することは不可能である。これら、最前線の役割を担う方々の負担に感じている部分の改善が必要ではないかと

考える。他の議員の意見で「役を担っている方々の繋がりが出来て、楽しく活動が出来ようになった事例もある。」とのことだ。このような繋がりが出来れば、負担に感じていたことも無くなっていくのではないかと考える。
次回に向け、これらのことを調査していきたい。

- 現在、町会加入していない方と加入されている方、双方のご意見を自町他町
いろいろな聞ける範囲で伺った。
 - ・ 加入していない方のご意見で最も多かったのは、加入のメリットと思える部分
を聞いてもデメリットと感じる割合のほうが大きく加入したいと思わない。
災害時にも役立つと聞いているが、今現状そこまで加入していることが役立つ
とは思えない。会計の透明化が必要だと思う。
 - ・ 町会役員にも聞いたが、加入していない方には声をかけても返事をいただく
ことはできず、なかなか新規加入していただくことは難しいのが現状である。
 - ・ 加入している方のご意見で一番多かったのは、良い面として、イベントなど
に参加すると新たな交流が増えて良い。悪い面として、自動的に入るものとし
て代々入っては来ているが、役員などは同じ人ばかりで回さなくてはいけない
ので正直負担も大きくこども会、老人会、婦人会などがなくなり残っている者
にさらに負担が増えているところもある。
- 町会加入のメリットが防災となっているが、要救護者を町会がオンタイムでき
ちんと把握できているのか。また、把握できていたとしても、避難所生活で、
「あなたは町会に入っていないので、救援物資は回さない」などと分けること
はできず、メリットとは考えられない。
- 町会・自治会に属する組織（こども会、老人会、婦人会、祭礼など）の協力によ
り、行事の運営が行われていることから、各団体の加入状況についても注視し
なければならない。すべての町会・自治会に独自の活動があり、積み上げてき
たものも違うため、一律の進め方での課題解決は困難である。
- 岸和田はだんじり祭があって町会の結束が固いといわれる。確かに町の行事に
は祭礼団体がよく活動する強みはあるが、祭りに参加しない人も多く、かえっ
て町会から遠ざけている面もあり、町会にとってそれが悩みだろう。

- 私の住んでいる地域では住居表示ができていない。町の境界についての各町会の主張の隔たりが大きく、テーブルに着けない状況である。

- 町会に加入するとなれば、子育て世代・現役世代とこちらに視点が向きがちであり、地域行事や学校行事への参加などを進め関わる機会を持っていけるような対応をすることが多くなっている。しかし、この世代は、公私ともに一番忙しい世代であり、町会の取り組みやそのメリットなどを伝えたとして加入促進にまではつながらないのは当然ではないかと考える。しかしながら、今まで、加入されていない中核世代の50歳代以降は、自身の老いまたは親の介護課題など、人生の転換期を迎える世代であるが、個人として地域のつながりを持たずに生活が成り立ってきたがゆえに、目の前の課題をどうすればよいか迷いが生じる世代だ。そのような時、身近で関われる町会関係者がいれば、自身の身をもって町会加入の一番のメリット、人と関わることで、自身の課題を解決できれば、納得の町会加入になると考える。今の時代、策よりも納得の時代だ。

- ★ 次回の討論会日程は、9月26日（火）10：00～
次回は課題抽出をテーマに議論を進める。